

ここからは、「事業の三本柱」それぞれの事業について、『FINEおおさか』のバックナンバーから関連記事を紹介していきます。

明るく活力ある 福祉社会づくりの推進

高齢者の 生きがい・健康づくりの推進

自らが生きがいをもって、個々に有する能力・パワーを積極的に活かすことのできる社会づくりを支援しています。

主な取り組みとしては、

1 地域社会におけるリーダー養成

◎大阪府高齢者大学 アクティブシニア講座
(前老人大学講座)の実施

◎シルバーアドバイザー養成講座の実施
2 シニアグループに対する支援

◎地域におけるシニアグループのネットワーク化と生きがいの場づくりの支援

3 シニア層の生きがい・健康づくり支援
◎全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手派遣

などがあります。

高齢者のいきいきライフをサポート 「アクティブシニア講座」 (前・老人大学講座)

最初の項目であるアクティブシニア講座については、2007(平成19)年65号の特集で取り上げていますので、記憶に新しいことでしょうか。講座の意義や概要、開講科目を紹介するとともに、いくつかの専門科目の様子を取材し、受講者の声などを紹介しました。

このアクティブシニア講座は、前年まで「老人大学講座」として展開していたもので、1979(昭和54)年から続いてきた講座です。これまでに2万人以上の方々が受講・修了されています。

開講されてきた専門科目には、福祉科・園芸科・陶芸科・手芸科・保健体育科・生活科学科・美術科・歴史考古学科・英語科・上方演芸科などがあり、北部講座(府立老人総合センター)と南部講座(府立障がい者交流促進センター)、東部講座(府立中央図書館)で実施されてきました。老人大学講座に関連しては、2001(平成13)年の41号で「大阪府立老人総合センター・夏期公開講座」、翌年の42号で「センター祭・大学祭(講座受講者の発表会)」を紹介しました。「夏期公開講座」は、高齢者の生きがいと健康づくりを促進することを目的に、より多くの高齢者に学習してもらえるようにと、老人大学の講師陣を中心に4日間の短期集中講座を実施したものです。



41号(上)と42号(中)、44号(左)の老人大学講座を紹介する誌面